

平成31年度 第1回(第14回)四国中央市子ども・子育て会議 議事要旨

日 時 平成31年4月22日(月) 15:00~17:00

場 所 市民交流棟2階 会議室1

委員出席状況

【出席】

| | | |
|-------|--------|-------------------------------|
| 委員 長 | 宮崎 政夫 | (公立保育園民営化選定委員会委員) |
| 副委員 長 | 星川 光代 | (桜ベンチャー四国中央) |
| 委員 | 村上 智子 | (公募市民) |
| 委員 | 内田 多恵子 | (公募市民) |
| 委員 | 高原 茂 | (NPO法人にっこりーの理事長) |
| 委員 | 高橋 真弓 | (四国中央市立三島東幼稚園長) |
| 委員 | 高橋 雅之 | (学校法人四国音楽学院理事長 緑ヶ丘・愛和認定こども園) |
| 委員 | 三好 桂子 | (四国中央市立北保育園長) |
| 委員 | 高橋 尚子 | (社会福祉法人伊予三島福祉施設協会 東保育園長) |
| 委員 | 石川 由加 | (育児サークル「リトル☆スター」「ツインチェリーズ」代表) |
| 委員 | 井上 俊正 | (四国中央市地区労働者福祉協議会) |

【欠席】

| | | |
|----|-------|--------------|
| 委員 | 寶利 佳代 | (NPO法人カノン代表) |
|----|-------|--------------|

【事務局】

| | |
|-------|-------------|
| 福祉部長 | 大西 賢治 |
| こども課長 | 藤田 泰 |
| こども課 | 鈴木 健生、児山 初美 |

【傍聴者】

なし

1. 開会

2. 部長あいさつ

3. 議事

(1) ニーズ調査報告書について

事務局より、ニーズ調査報告書等資料を順次説明

[委員長]

- ・ 資料P126の「希望する放課後の居場所」において、自宅や習い事、放課後児童クラブ以外で、「その他11.9%」となっているが、その場所はどこが考えられるか？

[事務局]

- ・ 公民館などであると把握している。

[委員]

- ・ 資料P140の「子育ての環境や支援に関して」の問5で、「両親がフルタイムで働いている家庭の子どもは1人で留守番をする事があり、不安を感じる」という意見がある。放課後児童クラブは、2年生までと3年生までの学校があるが、市内同じではないのか？

[事務局]

- ・ 川之江地域のほとんどの学校と松柏小学校では、申し込み人数が多く、指導員の人数が足りないため、1・2年生を優先して受入れた結果、3年生は待機となっている。

[委員]

- ・ こども食堂はどういう方々が利用しているのか？

[事務局]

- ・ 現在は川之江地域1ヶ所、三島地域2ヶ所運営している。利用者は家族や老人などである。また、月1回程度の開催で利用件数が多いという状況ではない。運営方法においては、団体でそれぞれ違い、市ではこども課は状況を把握している。

[事務局]

- ・ 「こども食堂」は、子どもの貧困層の増加や孤食などが問題として取り上げられるようになったのが始まりであるが、100%子育て支援という訳ではなく、柔軟な体制で運営することが必要であるとする。

[委員長]

- ・ アレルギーの問題や安全面等も関係してくるため、どういう対策をとっているのか気になるところである。

[副委員長]

- ・ 市の補助等はあるのか？

[事務局]

- ・ 野菜や果物、菓子などの食材を提供してくださる企業などがあり、それらの物資的支援やボランティアスタッフ等で運営しており、市が補助しているというのではない。また、全てを行政が把握しているのではない。新たな支援方法を考えていく上で、今後ご意見をいただけるとありがたい。

[委員長]

- ・ 子育てにおいて、祖父母等の親族に相談しているという回答が80%と最も多く、安心した。

(2) 第二期子ども・子育て支援事業計画の策定について

事務局より、第二期子ども・子育て支援事業計画の策定等資料等を順次説明

[委員長]

- ・ 子育てに悩んでいることの質問において、「子どもを叱りすぎているような気がする」が33.5%と最も多いが、ことばの暴力ということがあるのではないかと。

[委員]

- ・ 叱りすぎて、母親がうつになってしまうという話を聞いた。

[委員]

- ・ 子どもには結果ありきの伝え方ではなく、子どもが気付くような声かけが必要である。また上から押しつけるのではなく、これはどうしてそうなるのかと、子ども自身に考えさせ、子どもが学んでいく対話型の関わりが大切である。

[委員]

- ・ 大人が子どもたちへの関わりにおいて、対応しきれていない現状がある。

[委員長]

- ・ 子どもたちは日々成長しており、その中で大人の話し方や関わり方を見ているので、大人が学ぶことも必要である。
- ・ 若い保護者の世代には、働きやすい環境づくりをしていくとともに、自己責任等についても伝えていくことが必要である。

[委員]

- ・ 保育園の中には、7:30~18:30まで預けられている子どもがいる。親は時間をかけて育児したいと思ってもできない実情がある。家庭環境を把握して子どもだけでなく、母親もサポートしていくことが重要である。「あなたの味方よ。」という子どもと大人の愛着関係が大切である。
- ・ 家庭訪問で、「兄弟姉妹それぞれがタブレットを持って使っている家庭があった」と職員から報告があった。親を育てることの重要性和その難しさを感じている。

[委員]

- ・ 園の行事で父親が参加することが多くなった。イベントとしてだけ捉えて参加しているようで心配である。父親の役割などについても伝えていくことが必要であると感じている。

[委員長]

- ・ 子育ての中で、子どもの年齢が高くなると、父親の参加が大事になってくる。その点からも、父親の教育が必要になってくる。祖父母の支援をうまく使う、そういう関係になるとよいと思う。

[委員]

- ・ 子どもの人口が急激に減ってきているが、今後どういう状況が想定されるのか。家庭や地域社会においても、子ども同士で遊べない状況になってきているのではないか。

[事務局]

- ・ 今後、さらに議論し考えていくことが必要である。

[委員]

- ・ 自分の周りには、子どもの数が3・4人の家庭が割といるので、そこまで少子化を感じていなかった。

[事務局]

- ・ 一人っ子の家庭は少ないが、結婚をしていない人がわりといる現状がある。

[委員]

- ・ 共働き家庭が多くなってきているので配偶者手当より、子ども手当てにおいて、2人目より3人目4人目と増やしていくことなどを、自分が関係している職員組合でも議論している。

[委員]

- ・ 男性は5人に1人、女性は8人に1人が未婚という現状がある。結婚のよさを伝えることの必要性を感じる。また「親育て」も必要である。

[委員]

- ・ 児童クラブの指導員が不足しているということであるが、60歳以上の方々に協力していただくことができればと思う。

(3) その他

特記事項なし